

知的資産と知財教育：持続可能なガバナンスを支える「人材」の育成

「守り」から「攻め」へ：知的資産経営への転換

知的財産を「知的資産」の枠組みで捉え直す

権利（特許等）だけでなく、人材・技術・組織力・ブランドを含む広義の「知的資産」として認識する。

 **ガバナンスの本質は「人」と「組織知」にある**
投資家対話や情報開示を実効的にするのは、知財を理解し活用できる社内の人材である。

従来の「守りの知財」

焦点：法的権利の保護・コスト管理
範囲：特許・実用新案・商標
役割：リスク回避・侵害予防



これからの「攻めの知財（知的資産）」

焦点：価値創造・投資家との対話
範囲：人材・組織力・ネットワーク・ブランド
役割：経営戦略の推進・競争優位の構築



実践知を育む：次世代の知財教育モデル

「知る | 判る | 使う」の実践的プロセス



知る
単なる法律
知識の暗記



判る
実務を体系化した
PBL（課題解決型）教育



使う
使いこなす力

生成AI時代に対応した リテラシーの再設計

AIによる発明・創作の変化を見据え、既存のスキル標準を超えた新たな知財教育が急務となる。



産学連携による「知財人材パイプライン」の構築

大阪工業大学の実践知を地域や企業へ還元し、社会人学生のリカレント教育を加速させる。



（予測される業界：製造業、IT、シンクタンク等の知財に関わる産業全般）

大阪工業大学
杉道淳教授による
読後予言に基づく